

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 2 月 25 日 10:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～42,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 38,000～45,000 ドル
(S&P500) 5000～6200

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～109.881

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

2025 年に日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4 万 3000 円-4 万 5000 円]です※。

この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来 5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

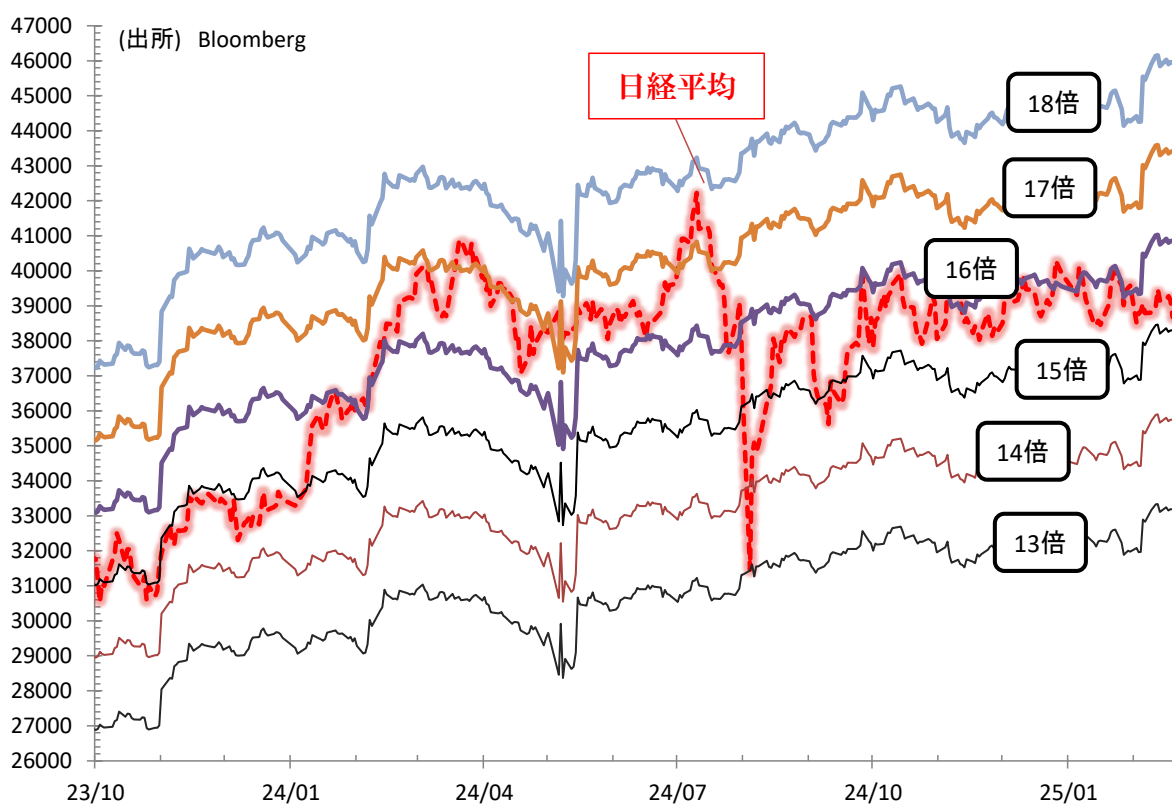
24 年 7 月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いているとみられます。

この見方によると、第(5)波上昇が始まる前に、日経平均は(4)-C 波によって下押しし、24 年 8 月底に次ぐ二番底を付けるでしょう。38,401 円を割ると、C 波による下げが鮮明になるでしょう(後述)。

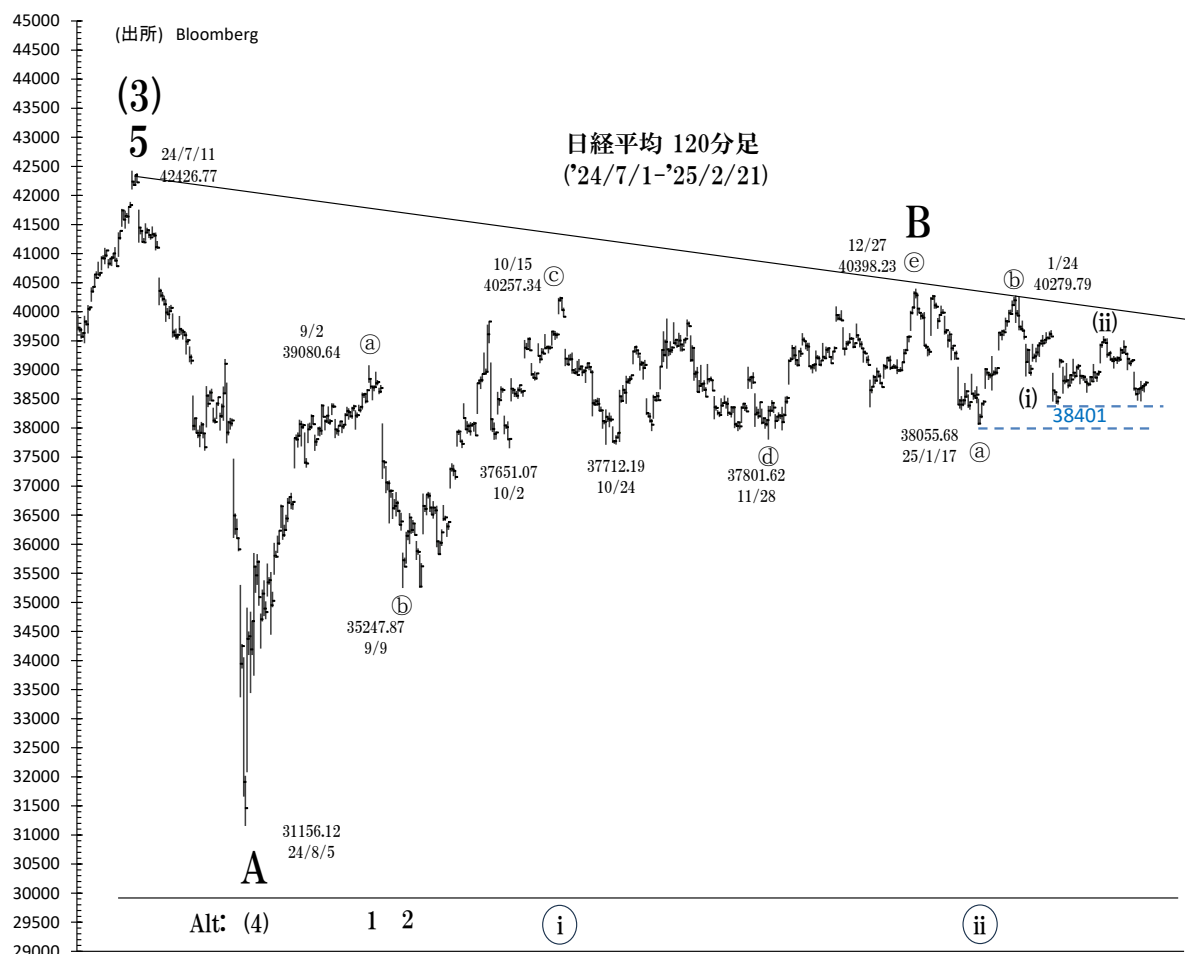
※2025 年の日経平均予想レンジは[3 万 5000 円-4 万 5000 円]です。



[予想 PER 別の日経平均水準]



2月21日の日経平均予想 EPS は 2556 円。過去最高は 2564 円(2/13)です。



【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)からは、第(4)波「シンメトリカル・トライアングル」(A-B-C-D-E)における、C 波の下落に当たります。この C 波によって、日経平均は 24 年 8 月底に次ぐ二番底を付ける、と見込まれます。

38,401 円(2/3 安値)を割ると弱気トリガーが発動されます—2 月 21 日には一時 38,456 円まで下げています—そうすると日経平均の下落基調はさらに強まり、短期的にも 38,055 円(1/17 安値)を試す展開になりそうです。

この 38,055 円という水準は、強弱感の分水嶺といえましょう。

24 年 10 月初旬から今年 1 月まで日経平均の安値は切り上がってきました。この「安値切り上げ」基調は 38,055 円を下回ると途切れ、そうすると日経平均の下振れリスクはさらに高まるでしょう。

38,055 円を下抜くと C 波は下げ基調を一段と強め、3 月中に 24 年 9 月安値の 35,247 円を下回ることもありそうです。

NY ダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

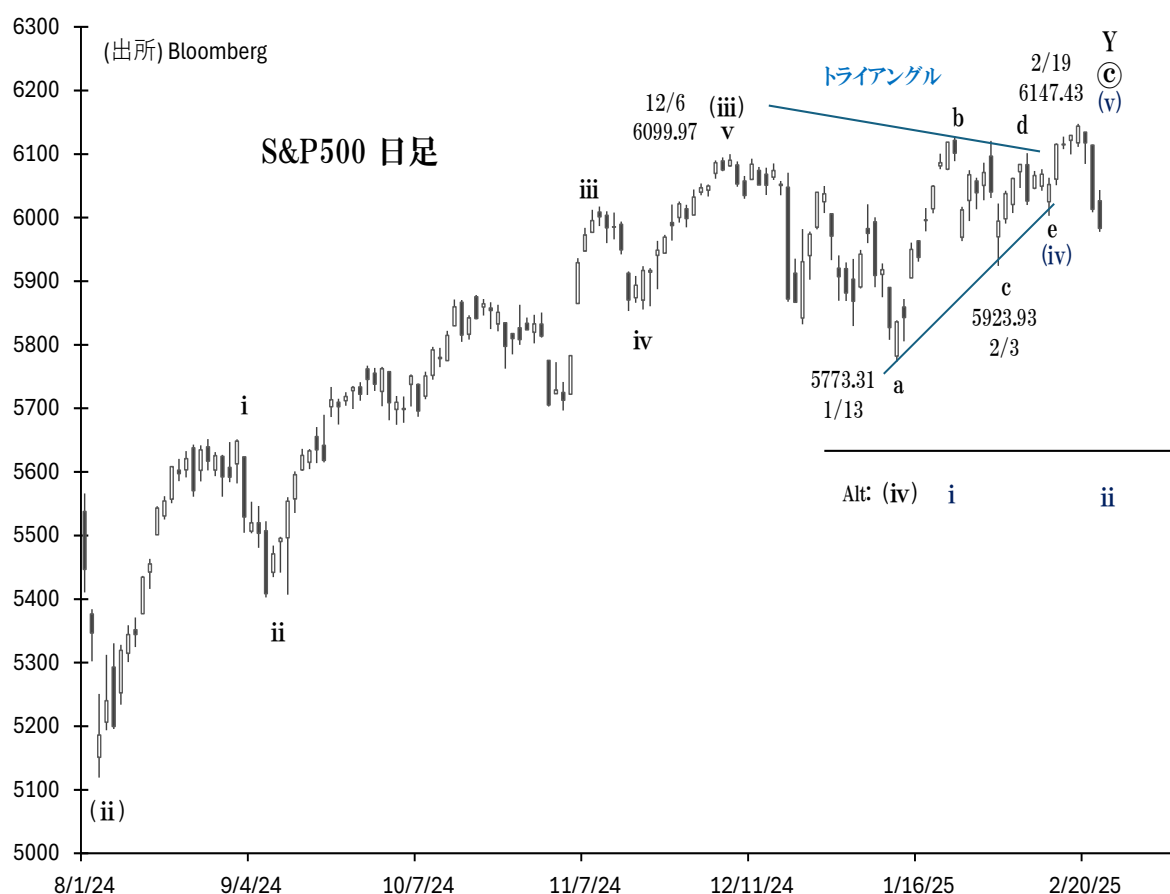
NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を 45,073ドル(12/4 高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22 年 10 月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

今後数カ月内の下値ターゲットとして注目される水準は、24 年 4 月安値(37,611ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準のことで、この時点における NY ダウの高値からの下げ率は 16.5%です。

(オルタナティブ・カウント)

41,844ドル(1/13 安値)から第(v)波による上昇が進行中です。この見方によると NY ダウは今後、[45,244ドル]、[45,575ドル]、[46,456ドル]、などへ上昇する可能性があります。これら上値メドを達成後に調整局面が始まるでしょう。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

24 年 12 月高値・6099 からの第(iv)波「トライアングル」は 6003(2/12 安値)で完成し、そこからの上昇は第(v)波に位置付けられます。

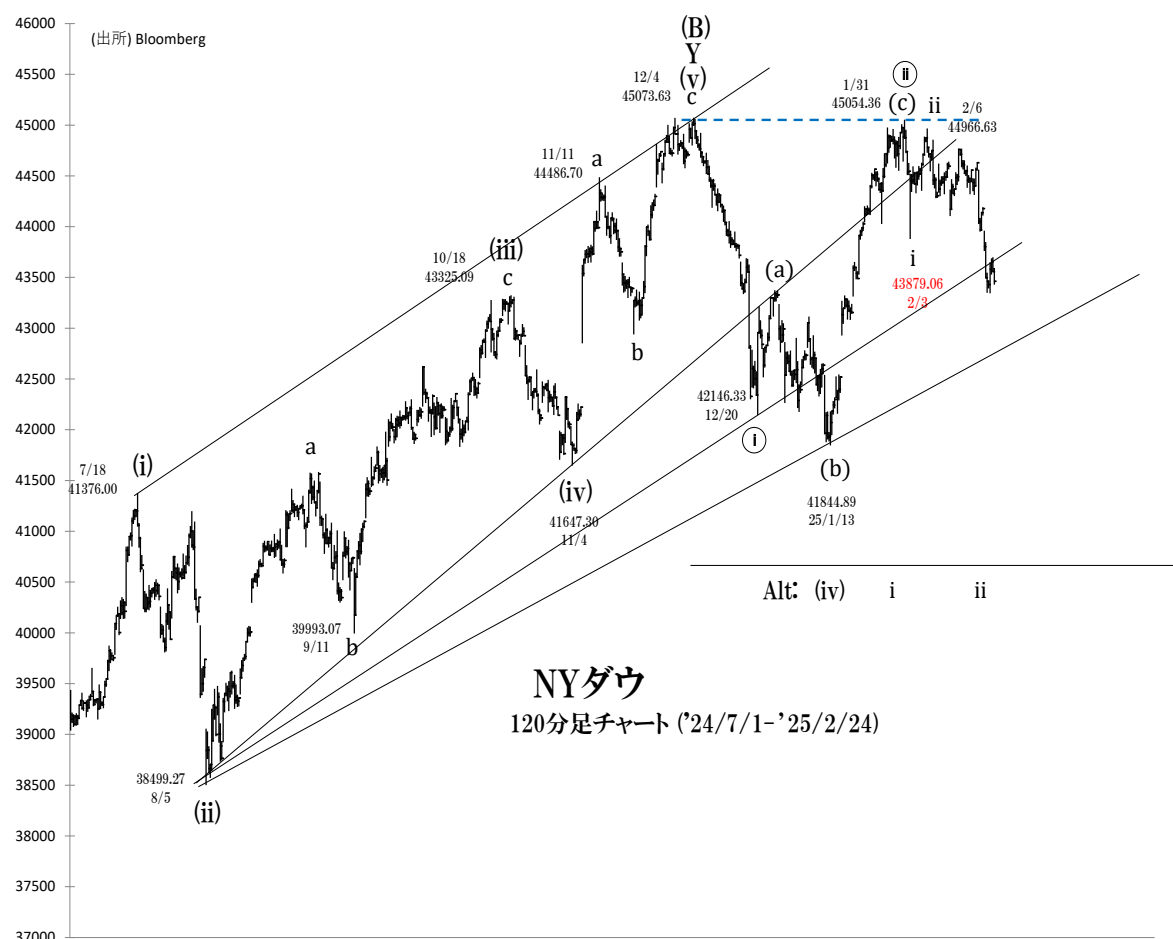
2 月 24 日には 6003 を下回りました。この動きにより、**6147(2/19 高値)を以て第(v)波は完了し、そこから調整が始まったとみられます**。第(v)波の上昇幅自体は比較的小さいですが、長期的な上値レンジ [6145-6161]内に収まっており、この点は大いに注目に値します。

S&P500 が調整に入ったとすると、当面それは、5923(2/3 安値)、5773(1/13 安値)などを順次試していくでしょう。最終的には 22 年 10 月以降で最大の調整に見舞われると思われます。

(オルタナティブ・カウント)

5773(1/13 安値)以来の第(v)波は依然進行中です。

第(v)波のうち第 ii 波は「フラット」(A-B-C)であり、足元の下げは©波とみられます。©波は 5923 付近で下げ止まり、その後は(v)-iii 波による上昇となり、それは 6147 を上回るようになります。この見方は 5773 を維持する限り有効です。



【時間足 エリオット波動分析】

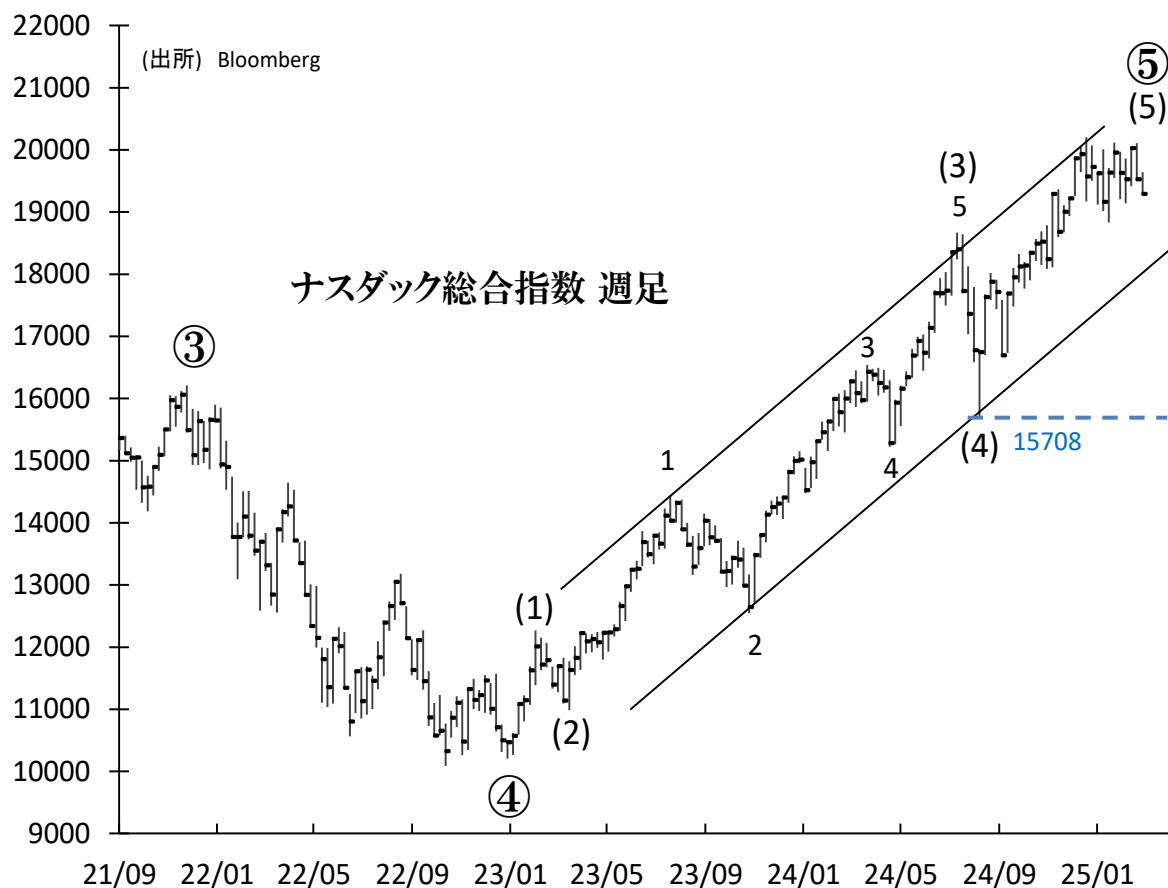
45,054ドル(1/31 高値)からマル iii 波による下落が進行中と思われます。

当面の節目は 4 万 3000ドル。この付近に、フィボナッチからのサポートレベル・43,070ドル(1 月からの上昇の 61.8%押し)が控えます。終値ベースで 4 万 3000ドルを下回ると、調整入りはより鮮明となり、次は 41,844ドル(1/13 安値)への下値試しとなりそうです。

(オルタナティブ・カウント)

41,844ドル(1/13 安値)から第(v)波による上昇が進行中です。第(v)波-第 i 波を 45,054ドル(1/31 高値)で終え、足元は第 ii 波の調整にあります(第 ii 波は 4 万 3000ドルを維持するでしょう)。第 ii 波を終えると NY ダウは、第 iii 波の上昇により最高値を更新するでしょう。

ナスダック



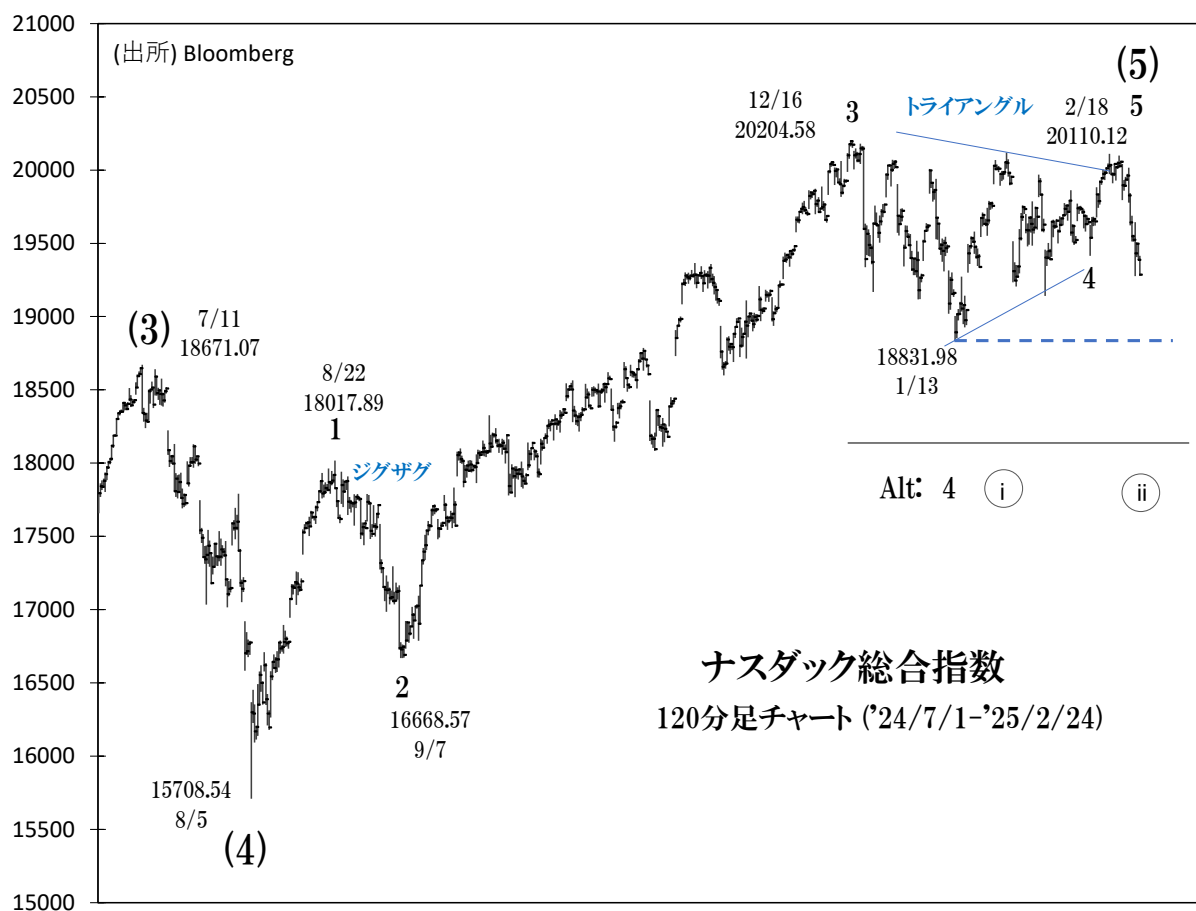
【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

ナスダック 100 は史上最高値を 2 月 19 日に更新していますが、その一方、ナスダック総合指数（以下、ナスダック）は 24 年 12 月 16 日の最高値をいまだに更新できていません。両者間の「未確認」は時間の経過とともに一段と鮮明となっており、重要な天井を付けたとの見方が強化されています。

ナスダックは、22 年 12 月安値(10,207)以来のプライマリー級第⑤波を完了し、サイクル級の調整に入ったかもしれません。

ひとたびサイクル級の調整に入れば、調整規模は大きく、期間は長くなることが想定されます。この場合、ナスダックは当面、24 年 8 月安値[15,708]へ下値試しとなる可能性があります。





【時間足 エリオット波動分析】

20,110(2/18 高値)を以て第 5 波による上昇は完了し—それは最高値に未達の『短縮された第 5 波 (truncated fifth wave)』だったようです—本格的な調整に入った可能性があります。

この見方は 18,831(1/13 安値)を下抜くと一段と強化されます。そうなればナスダックは当面、フィボナッチ比率によるサポートレンジ[18,487-17,426]を試すでしょう。

ただし 18,831 を維持する限り、第 5 波の上昇が継続している可能性は残されます。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は136.165円(3月)に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は116.540円(3月)です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からはC波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記したB波[トライアングル]仮説によれば、C波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)になります。

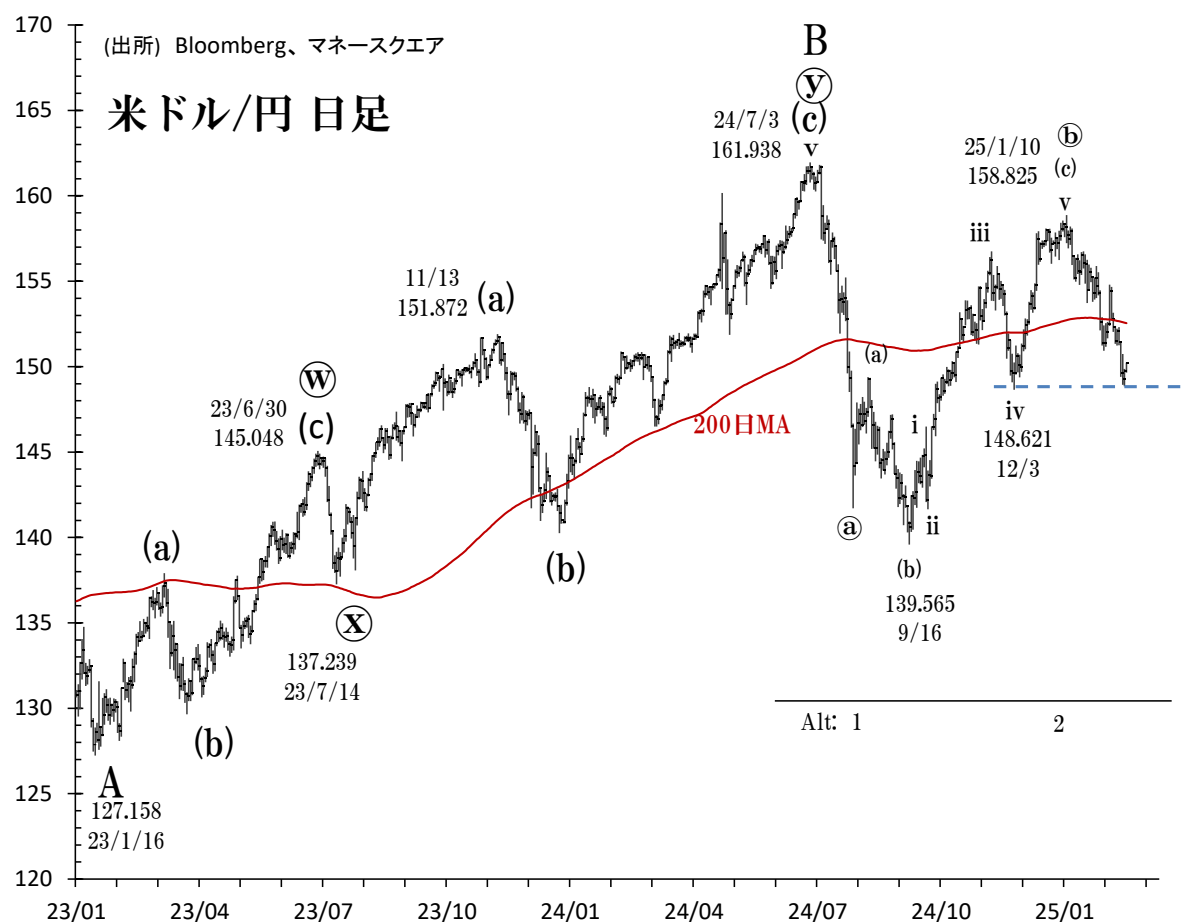
先週足は一目均衡表(週足ベース)の雲から明確に下放れています。週足が雲を下回るのは24年9月下旬以来初めてであり、中期的な円高トレンド入りが見込まれています。

158.825 円(1/10)からはⒸ波によるドル安・円高が進行中、とみられます。

ドル/円は今後数カ月以内に、24年9月の139.565円を下抜くでしょう。その際は以下の水準がⒸ波ターゲットとして注目できます。

[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24年7月から9月までドル/円下落幅と、今年1月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

足元水準は 148.621 円(12/3)に接近しており、目先的にはドル/円買い戻しの動きが起こりやすいところ
です。

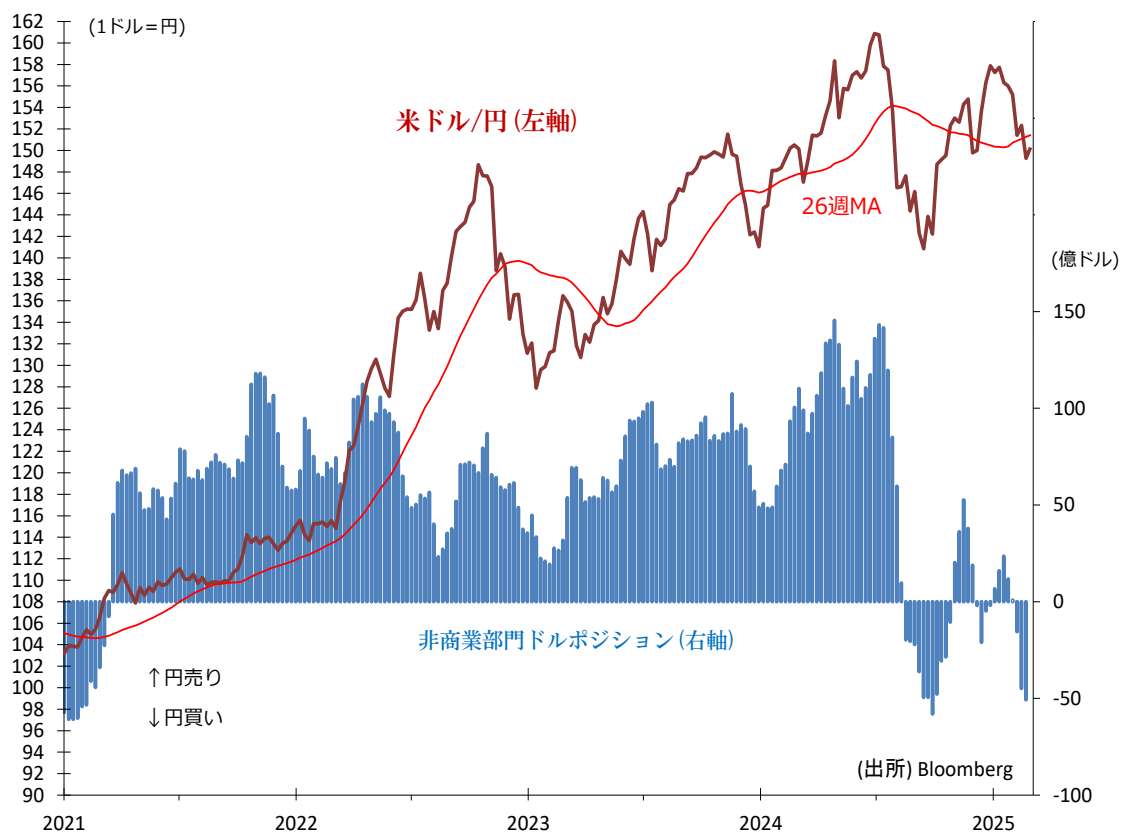
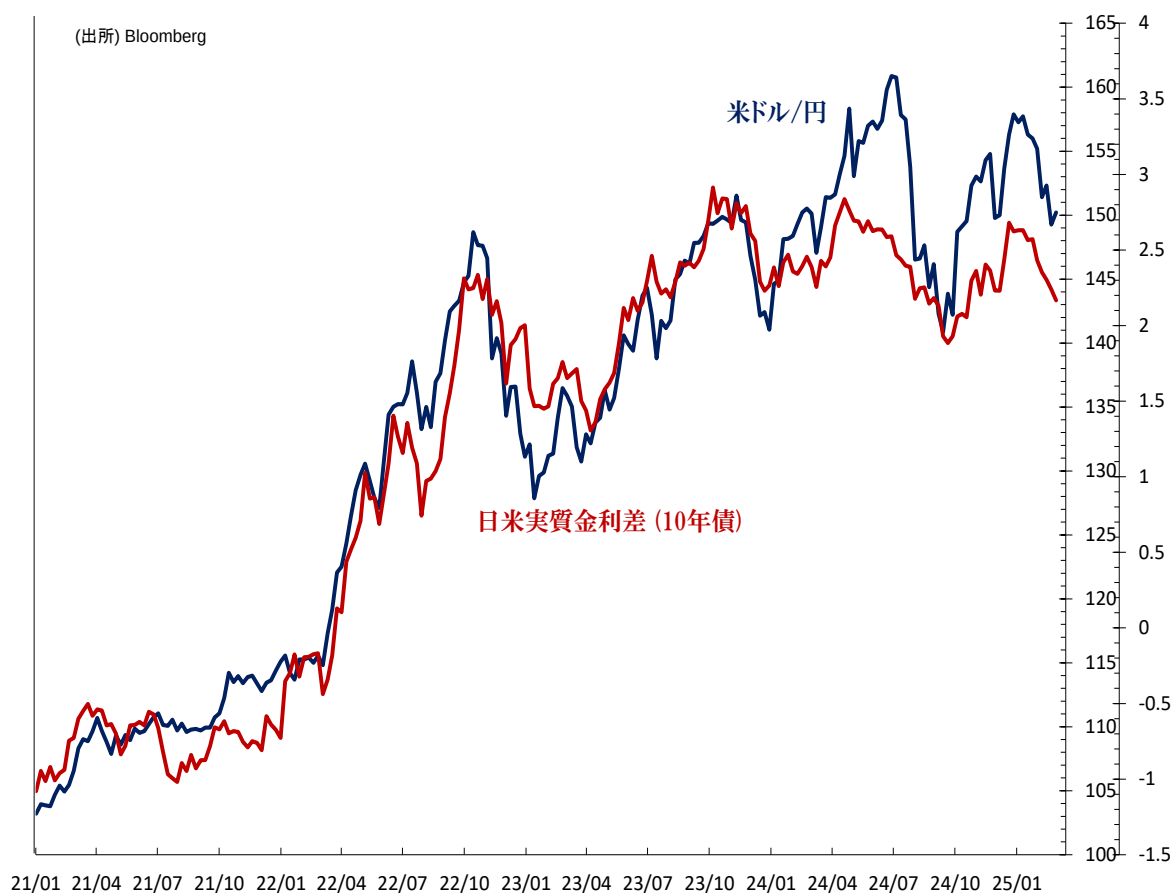
もっとも、趨勢としてのドル安・円高は今後も続くとみられます。遠からずドル/円は 148.621 円を下抜き、
さらには[146.922 円] (9 月からのドル/円上昇の 61.8%戻り)も打診することになるでしょう。

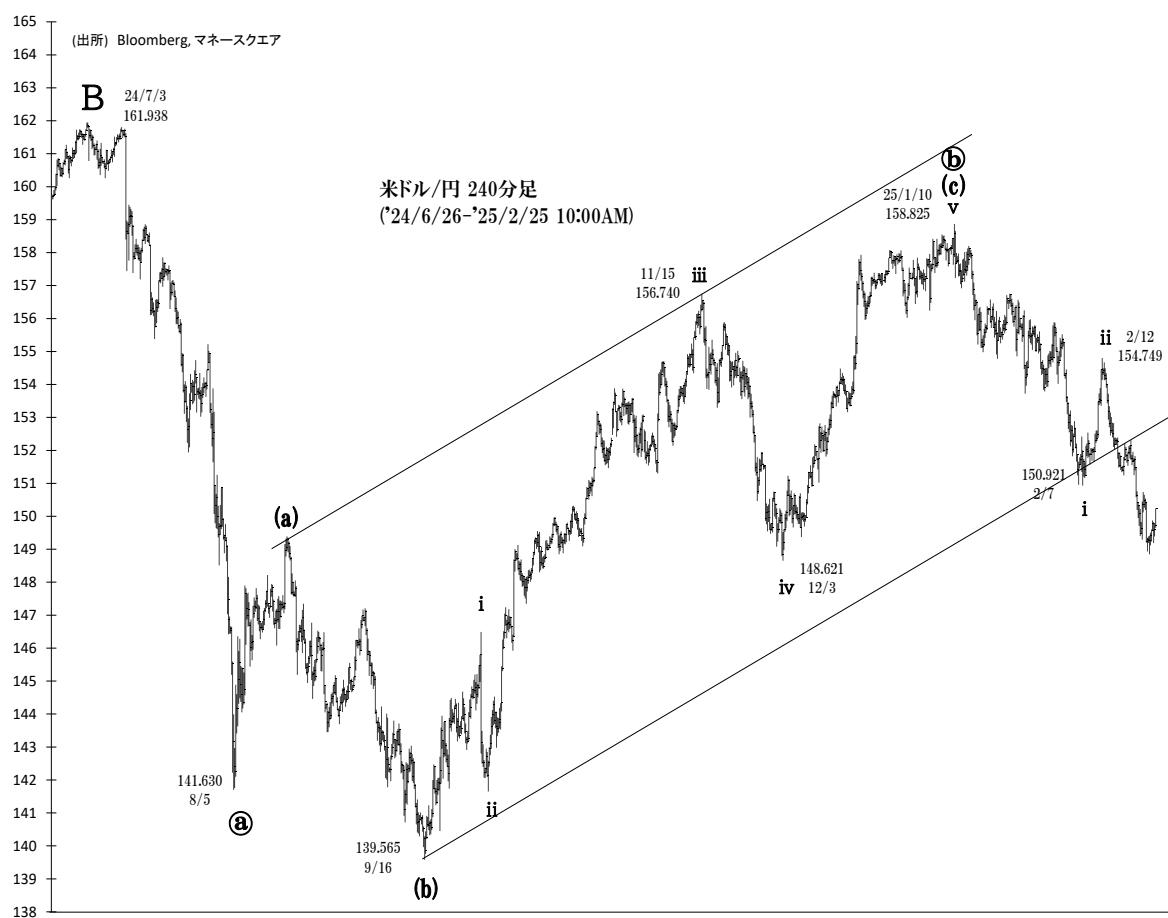
金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[145.584 円]です。

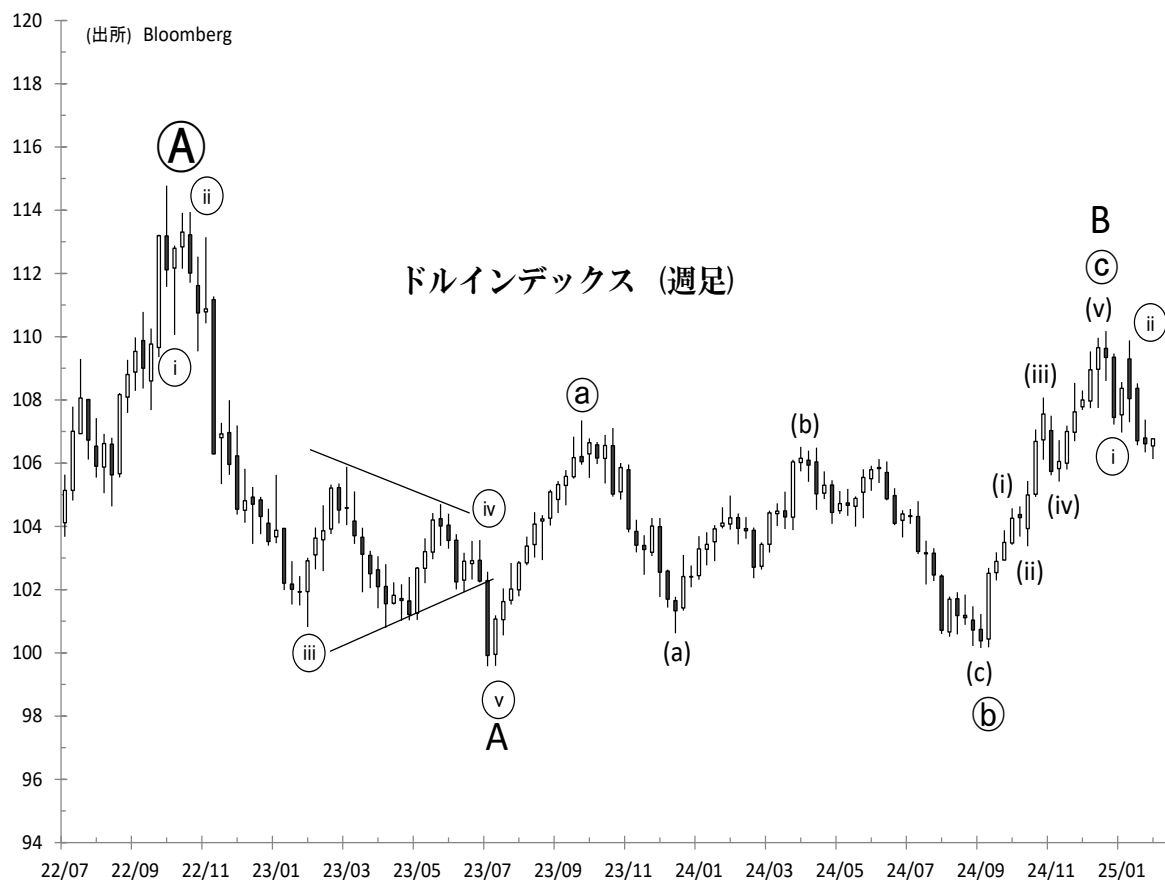
投機筋の円買い持ち高は 3 週連続増加(2025 年 2 月 18 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 44.8 億ドルから 50.7 億ドルへ
増えました。円買い持ち高の増加は 3 週連続です。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)からのドル安は、C 波に位置付けられます。

109.881(2/3 高値)から C-マル iii 波によるドル安が進行中です。既に B 波-Ⓒ波の 38.2%押し[106.349]を達成し、目先のには下げ一服もありそうです。

もっとも、ドル指数の下値試しは今後も続き、次は 24 年 12 月 6 日安値の[105.420]を試すでしょう。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドルは 10 カ月で 13.2%減価しました。この A 波の期間と下落率は、C 波を考える上で参考になります。

筆者はドル指数が今年中に、23 年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
